

た“新星”は、所謂“普通の新星”と“超新星”との二種類があつて、“超新星”は“普通の新星”よりも、約一萬倍も光輝が大きいのです。例へば、1885年にアンドロメダ大星霧の中に出現した新星は、“超新星”の一標本で、其の絶対光度は -15.0 等級でした。

ですから、吾等の“蟹星霧”が、果して1054年に現はれた一超新星の成れの果てだとすれば、其のガスの爆發が、不規則ガス星霧として今こゝに尙ほ見えてゐるのでありまして、これは實に興味深い事實であり、昨1939年のフランス天文雑誌 *L' Astronomie* (8月號)や、米國の *The Telescope* 誌 (9月號)にも、面白く之れが解説されて居ます。

上記の記載によつても知られる通り、永く只“メシエの星霧星團目錄の第1號天體”，即ち、略して“M1”として知られてゐる“蟹星霧”が一超新星であることの證明は、ほど成功しましたが、此の證明のために、直接に貢献してゐる人を挙げると、英人ビーギス、佛人メシエ、英獨人ハーシエル、アイル人ロス卿、英人ロバーツ、米人キラー、カテス、リチー、ホブル、メイヨール、スウェーデン人ルンドマルク、獨人ハーデの諸氏、それに、我が日本と支那の歴史家であつて、實に之れは、世界の古今の人々の努力が相互ひに協力した形となつて成功したものです。こゝにも、天文研究といふものの一つの貴い姿が示されてゐるわけです。

話題の“蟹星霧”は、この頃、觀察に最も便利な位置に見えてゐます。“牛座”の東部で、其の星座のゼータといふ三等星の西北に當り約1½°ですからゼータ星をたよりにして小さい望遠鏡を向ければ、すぐに見つかります。學界に非常に有名な星霧である割に合ひに、まだ此の星霧を一度も見たとのこない人が、専門家の中にも、アマチュアの中にもあると思ひますが、此の新事實の確證された今、是非一度は見ておくべきものでせう。天界の名所の一つですから。

防空都下試觀天象

防	空	都	下	試	覽	象
滿	目	蒼	旻	望	不	常
千	萬	灯	燈	遍	滅	却
星	輝	一	段	倍	光	芒